

2019年度 第2回
平安朝文学研究会 研究発表会

日 時 2020年3月7日（土） 14:00～16:20

会 場 早稲田大学 戸山キャンパス（文学学術院） 39号館5階 第5会議室

○ 研究発表（14:00～15:00、15:20～16:20）

荒井 洋樹（早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程）

『うつほ物語』大后宮六十賀屏風攷

『うつほ物語』菊の宴に描かれる大后宮六十賀屏風には、「右大将」を筆頭に貴顕が詠進し、和歌史的にも注目に値する。本発表では、『うつほ物語』の中で当該屏風が果たす役割を明らかにする。また、その和歌にも独自な表現が多く見え、それについても精読したい。

李 賢秀（早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程）

『源氏物語』「蓬生」巻における「藤」とその香り

源氏が末摘花と再会する場面には、大和絵屏風の類型的な図柄として享受された「松にかかる藤」が描かれている。この絵画的な描写には、平安時代の文化的記号としての象徴性が潜んでいると予想される。本発表では、『源氏物語』「蓬生」巻における「藤」とその香りの意味について考察する。

○ 懇親会（17:00頃～） 会場 かわうち（新宿区西早稲田2-3-22）

※どなたでもご参加になります（無料）。

※当日は、同会場で13:20より委員会を開く予定です。

◎お問い合わせ 平安朝文学研究会事務局（早稲田大学文学学術院 隣野英則研究室内）

E-mail : jinno@waseda.jp